

わが町を学び場とする、「美和高等学校地域探究科」

若いチカラがあま市にもたらす、無限の可能性



公立高校による、異例の取り組み。
探究×フィールドワークで、
学びはもっと深みを増す



昨年度に発足し、地域内外から一躍脚光を浴びた県立美和高等学校の新たな学科「地域探究科」。



地元農家・企業・団体へのインターンのほか、地域の誇りでもある七宝焼などについても、学びを深める高校生たち。ほか、大学や行政、消防といった連携機関への訪問もこなすという授業のバリエーションは、あまりに豊富というほかない



公立高校発、まったく新しい「普通科」

地元であるあま市・大治町・清須市などの地域を中心に、行政機関や地域商業PR、七宝焼の継承といったテーマにアプローチ。それらを徹底的に学び、連携している大学や観光協会といった外部機関とも交流し、探究を重ねていく。その成果は、学校内外でプレゼンテーション。ときに行政に提言し、あるいは動画配信、コンテスト応募などを通じて、学びを自分ごととしていく……。

昨年度より、県立美和高等学校に設定された学科「地域探究科」。その授業内容を聞くと、高校とは思えない斬新な授業スタイルに驚かされる。そもそも同校はいわゆる一般の公立高校。学科新設という思い切った行動に打って出た舞台裏を、同校教頭の菱田佳祐さんが明かしてくれた。「2019年頃、先々代校長が中心となり、「果たして美和高校のあるべき姿はこのままで良いのだろうか」という議論が起きていました。生徒募集への苦戦もあり、当校の魅力アップが、急務でした」。導き出した方針は、地域とのつながりを大切にするというもの。この数年後には地域活動部や、地域連携センター「美和高マインド」を発足させ、地元との定期交流を模索してきた。大きな転機が訪れたのは、2023年。文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」に指定されると、学科新設というフェーズに。もちろん、容易ではなかったようだ。

「先代校長と協議を重ね、総合的な『探究』の時間と学校設定科目を合わせて、各学年に週6時間ずつ設けることとした

深く深く学びを突き詰めるだけではないのが、カリキュラムの特色。ときに彼らは大人たちの前に立ち、学んだことや考察をプレゼンテーションし、次につなげる。PDCAサイクルを思わせるような授業スタイルによって、社会人のような能力すら身につく学生も出てきている



した。しかし、必修科目などカリキュラムに制約もあるため、バランスをとることが非常に難しかった。それでも「苦しくても何とかする」、これが私たちに通ずる想いでした。

強い決意のもと新カリキュラムを考案。ついに生徒募集も動き出したのが、2024年度。しかし、中学生を対象とした最初の進路希望調査では、志望者は「数名」という結果が出てしまう。実績ゼロの新設学科ゆえに当然の結果だったが、ここから学校が本格的に動き出していく。

「これまでの地域活動のなかで培ってきたご縁もあり、先代の校長を中心として、さまざまな方法で広報活動を行いました。そして地域の方々のご理解やご協力により、2025年度入学者選抜において、定員通りの40名の入学生を迎えることができました。」

こうして困難を乗り越え、ついにスタートを切った地域探究科。まさに、地域とともに新しい一歩を踏み出した瞬間だった。

いつか地元にも貢献する
逸材が、地域を変革！



新たな普通科として歴史を刻み始めた、新時代対応型の地域探究科。探究推進部主任の中田加代子教諭と、担任で



国家資格キャリアコンサルタント
のりひろ
後藤 憲浩さん
美和高等学校の斬新な
取り組み、今後の発展に
注目しています！

大学のキャリア支援（キャリア教育）部門と入試部門という、大学の入口と出口をも担当した知見をもつ後藤さん。実践的な探究学習に挑む地域探究科に、応援メッセージが届きました！

地域探究科の学びは、地域課題に主体的・協働的に向き合い、みずから考え、発信する力を育てます。これは、大学や社会が求める力に直結するもの。現在の総合型選抜という入試方式では、学力試験と同じく活動経験が評価されます。そうした意味でも、探究活動が将来の可能性を大きく広げると思います！

ある鈴木竜平教諭が中心となり、地域の魅力を幅広く学べるカリキュラムのブラッシュアップが続いている。そんな情熱あふれる教師陣の授業を経て、生徒たちにも大きな変化が見られるという。

「日常的に学びをアウトプットしてきたためか、地域探究科の生徒たちは明るく、積極性が伸びたと感じています。現在では、生徒会役員選挙において「役員を全員、地域探究科から出そう」という勢いある声も。普通科の生徒に自分たちの価値観を共有し、学校を変えていこうという意識が、芽生えつつあります。」

ポジティブな雰囲気は、各々の個性を存分に伸ばす生徒たち。そんな彼らを、地域住民も優しく見守っているようだ。「地元を探究した成果をプレゼンテーションしていますと、近隣住民の方から、温かな評価をいただいています。そして、「地元の高校が興味を持ってくれた」という声も多々。ありがたいことです。」

そんな学生たちは、最終的にどんな大人になっていくのだろうか？ これについても、菱田教頭はそのビジョンを語りつつ、地域への熱いメッセージを送ってくれた。



INFORMATION
愛知県立美和高等学校
愛知県あま市
篠田五ツ藤1番地
TEL.052-443-1700
HP
QRコード



愛知県立美和高等学校 教頭
菱田 佳祐さん

地域探究科創設に際し、和太さんと一緒に、美和の魅力を最大限に引き出すための新しい形として、生徒一人ひとりに「長期的にわたって美和の魅力を伝えること」を目標として、未来を語り、力強く

探究は、「自ら問いを立てて、その課題を解決していく学習」。その類まれな手法を習得した学生のチカラは、必ず地元の抱える課題解決や、新たな魅力発掘の、大きな起爆剤になる。美和高等学校地域探究科の第一期生をはじめとする、在校生たちへの期待は高まるばかりだ。